



今月のテーマ 『職業奉仕月間』

第1461回例会

2017年1月26日 Vol.31/No.25

■本日の例会 / 第1462回 平成29年2月2日(木)

- 会長・幹事報告
- 各委員会報告……各委員長
- 入会式……梶口 淳 新会員
- 米山奨学生卓話……バトムング パーナルスレン 様
- 誕生&結婚お祝い報告…フェロシップ委員会

【出席率状況報告】

- ・会員数 ……54名
- ・出席者 ……34名
- ・欠席者 ……20名
- ・出席率 …… 62.96%
- ・1/12の修正出席率…77.78%

■会長挨拶



会長 香川美穂子

こんにちは。先週は急に上京しなくてはなくなり例会を欠席致しました為、急速三輪副会長に代読をお願い致しました。三輪さん有難うございました。一部の方には申し上げておりますが、実は私の母校の大学で1年ほど前から騒動が起き、新聞にも何度か載る有様です。先週木曜日は私立大学協会、金曜日は文部科学省に行き解決の方法を相談して来ました。ご存知の通り文部科学省自体も問題発生で、行きました日は建物の周りは放送局の車が並び記者会見の準備もされており、何だか落ち着きがありませんでした。日曜日の宮日に天下りを斡旋した文科省のOBの「経験を活かせる仕事に引き合わせてあげたいと言う人助けの気持ちだった」との発言が出ておりました。私はこう言う事は一般社会にはありうると思います。斡旋料として裏で多額なお金が動いたりしたら問題でしょうが、どこの社会でも良い人材は欲しい訳ですし、再就職を希望する人にとっても引き合わせてもらえるのは有難い事です。この後どう纏まるのでしょうか。又新たな事実など出て来て騒々しくなるかもしれません。人材を求めていたのは早稲田大学ですが、どんな大学でもこの少子化時代の安定経営は死活問題で必死だと思います。だからこそ有能な人材が求められます。特に私立大学はその大学の理念を継承させ創業者の意思・思想を継ぐ人が求められます。その為創業者の家族・子孫が代々経営を継ぐ事となり、周りも当然と見てしまいます。今回の私の母校の事件も、当たり前のように経営を続けた創業者と言われていた家族により起きてしまいました。110年の歴史を持つ学園ですから4代目に当たる人によって最悪の事態となりましたが、その一番の原因は「子育て」であったと私は分析して

おります。創業者は自分の思想・想いの実現の為に起業します。それは教育機関でも会社でも同じだと思います。そしてその想いを社会に伝える為に教育機関は学生を育てますし、会社は製品・商品を製造して人々に提供するわけです。そこで次の課題が後継者問題です。2代目くらいまでは創業者の息のかかった人々が残っているでしょうし創業者自身も存命でしょうから継承はスムーズに行くでしょうが、問題はその後です。「親は苦労し子は楽をし、孫は河原で乞食する」と言う言葉があります。「3代まで継承させる事が如何に大変か」と言う事を端的に表しています。ではそのような悲しい結末にしない為には「どうしたら良いか」と言う事ですが、それは子育てをしっかりとする以外にはありません。「子育て」とは肉体を育て教育を与えるだけでは無く、その家の思想・家風をも身につけさせる事です。特に家業に対する想い、思想を叩き込んでおかないと何代かの後には創業者を裏切るような事が起き、その結果それまでの何代にもわたる努力や社会に対する業績も泡と消える結果を招きます。その子育てを担うのは母親です。勿論子供を育てると言う大事業は夫婦での共同作業ですが、自分の肉体を使って細胞分裂からの神秘的作業を受け持ち、身二つとなつてからは24時間365日片時も気を抜くことなく接し、子供に「いつもママがそばにいる」と言う精神的安定を与え続け子供の情緒を育てる事が出来るのは母親です。そして家庭内では父親と共に折に触れ、人としてどう有るべきか、何が良く何が悪いかの善悪や社会の倫理観を話して、将来の社会生活に備えねばなりません。親も「いつも子供に見られている」と襟を正し背中に視線を感じるべきです。背負うべき家業が有る場合は尚の事でしょう。家業の継承は大事業です。私はいつも思うのですが、徳川家が300年続いた事の

偉大さ、歌舞伎や京都などの名家の凄さ。どれだけの努力と涙が流された事かと。「鉄は熱いうちに打て!」「獅子は千仞の谷に子供を落としそこから這い上がったものだけを育てる」と言う言葉が重く響きます。今「子育て」という生物として肝心の事がおろそかに扱われていると感じます。「なでしこ会」でその辺りに切り込めると良いのではと考えております。以上です。

■職業奉仕委員会 委員長 江口健一



2月9日(木)は職場訪問になっております。

[場所]シェラトングランド・オーシャンリゾート [時間]例会終了後

食事の関係がありますので、ご返事を早めをお願いいたします。

○「くすの木賞」候補者推薦のお願い

4月に「くすの木賞」の贈呈式を行いたいと思っておりますので対象者のご推薦をお願いいたします。

■フェロウシップ委員会 委員長 西橋龍博



2月23日(木)は梅見会夜間例会を行います。今回は米山奨学生のバトムンク パータルスレン君の送別会を兼ねて行いますので、

多くの参加をよろしくお願いいたします。

[場所] ベルエポックカフェ

[時間] 18時30分～

ゲスト卓話 「足から育む豊かな未来」

みやざき足育センター



代表 成田あす香様

「足育」とは、一生を元気に歩き続ける足を育てるための学びと実践です。足は体を支える大切な土台ですが、近年、大人だけでなく、子どもにも足のトラブルが増えています。これを防ぐためには、必要なことが2つあります。まずは、足や靴の基礎知識をもつこと。そして、生活の中で体を使う機会を増やし、足を育てることです。

私は、足育インストラクター・保育士として、子育て支援センターや保育園で保護者対象の足育講座を実施したり、親子あそび教室を開催したり

して、足育の大切さを啓発しています。

この活動を始めたきっかけは2つあります。まずは、長男が小学2年のとき、足にトラブルが起きていると気づいたことです。まっすぐ立った姿勢のときに、足の指が床から浮いていました。原因は学校の上履きと思われました。

もう一つは、長女を含めた3歳の子ども達がしゃがむ姿勢が出来なかったことです。東京で関わっていた子ども達は、躓なく出来ていたのに、なぜだろうか。そこで気づいたのが、東京と宮崎の移動手段の違いです。

少子高齢化社会による様々な問題が心配される中で、いま出来ることは何でしょうか。それは、子ども達を健康な体に育てあげ、私たち大人は介護要らずの元気な体でいる努力をすることだと、私は思います。

今日は、いつまでも健康で元気に歩ける足になるために、子どもから大人まで誰もが覚えておきたいことを3つお話します。

《爪の切り方》

全身の体重を支える足の爪は、切り方が良くないと巻爪や陥入爪などを起こしやすくなります。

足のトラブルを防ぎ、力をしっかり発揮するために、爪は「指の先と同じ長さ」で「まっすぐ」に切ります。そして、角を爪やすりで丸く整えてください。

《足の健康を守る靴のチェックポイント》

(1) 足と靴をフィットさせられること

甲にベルトや紐がついているものがお薦めです。

(2) 足の指で蹴り出して歩けること

つま先がゆったりと広く、厚みのあるデザインのものを選びましょう。

そして、靴底が足の指の付け根の位置でまがるかどうか確認しましょう。靴底の全体が硬い靴は、足の指で蹴り出すことができず、不自然な歩き方になりがちです。

(3) 踵がしっかり支えられること

ヒールカウンターと言う、かかと周りに芯が入っているものを選ぶと、踵で着地するときの安定感が高まり、足への負担が減らせます。

(4) サイズが合っていること

足の長さや幅の両方を測って、サイズ選びの参考にします。足に合う靴を選ぶ専門家「シューフィッター」が計測や相談に応じています。

発行/ 宮崎中央ロータリークラブ

●事務局 〒880-0804 宮崎市宮田町10-25 宮田町ビル TEL.0985-22-6767 FAX.0985-22-0288
●例会場 〒880-8545 宮崎市山崎町浜山 シーガイアコンベンションセンター TEL.0985-21-1155(毎週木曜 12:30~13:30)
会長/香川美穂子 副会長/三輪修珍・田中 寿 幹事/江藤敬治